

和歌山病院での実習を終えて



根来 和宏

和歌山県立医科大学医学部 5 年次における第三内科臨床実習の一環として、今回 12 月 4 日・5 日の 2 日間、国立病院機構和歌山病院において実習させていただきました。この実習では主に胸部レントゲンの読影の基礎や結核について勉強させていただきました。

初日にはまず、駿田先生に感染症としての結核や、空気感染予防として N95 マスクの適切な着用法についてなどを教えていただきました。また和歌山県内で結核病床を持つ唯一の病院として、和歌山病院における結核治療の現場を見学させていただきました。今回の実習までは、結核は空気感染するという知識から、完全に隔離された病棟でのみ結核は治療されているという先入観を抱いていました。しかし結核は接触感染や飛沫感染はしないことを改めて学び、和歌山病院ではユニット病床という形で治療がなされているということ、また、空気感染対策を適切に行えば他院でもモデル病床などの形で治療できるということを知ることができ、驚きを感じました。

続いて、南方先生には胸部レントゲンの正常画像について教えていただきました。これまで胸部レントゲン写真の読影はどこを見ればいいのか戸惑いながら、教科書などを見て四苦八苦していました。南方先生は影絵との比較を用いて、レントゲンにおいて線ができる原理や条件、肺野で注目すべき点などをお話くださり、ただ覚えてきた私にとっては目から鱗が落ちることばかりでした。また暗記するのが難しい肺の区画についてもブロンコ体操という形で体を使って覚えることができ、胸部レントゲンをより深く理解できるようになったと感じています。

また、休場先生には人工呼吸器を実際に着用させていただき、患者さんがどのような状態で過ごしているのか体験させていただきました。川邊先生には呼吸器・循環器疾患を診断していくうえでの考え方について、実際の症例を用いた PBL 形式で勉強させていただきました。

初日の夜には南方先生と夕食をいただきながら御坊・日高地域の逸話などをお聞きし、地域に根差す上でその地域を知ることの大切さを学ばせていただきました。

今回の実習は 2 日間と短い間でしたが、読影や結核治療の現場など、多くを学ぶことができました。最後になりましたが、南方院長、駿田副院長、川邊先生、休場臨床工学技師を始め、お忙しい中、貴重な実習の機会をくださった和歌山病院の方々に心より感謝申し上げます。